

先史時代の伊平屋島をめぐるネットワーク
—久里原貝塚・東原貝塚出土土器の分析から—

山 崎 真 治

Prehistoric trade network around the Iheya-jima island: A fabric analysis on the prehistoric pottery
from Kusato-baru shellmound and Hija-baru shellmound site

Shinji Yamasaki

伊是名島・伊平屋島総合調査報告書、沖縄県立博物館・美術館 別刷

2019年3月15日

Reprinted from Survey Reports on Natural History, History and Culture of
Izenajima and Iheyajima Islands, Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

March, 2019

先史時代の伊平屋島をめぐるネットワーク —久里原貝塚・東原貝塚出土土器の分析から—

山崎 真治*

Prehistoric trade network around the Iheya-jima island: A fabric analysis on the prehistoric pottery from Kusato-baru shellmound and Hija-baru shellmound site

Shinji Yamasaki

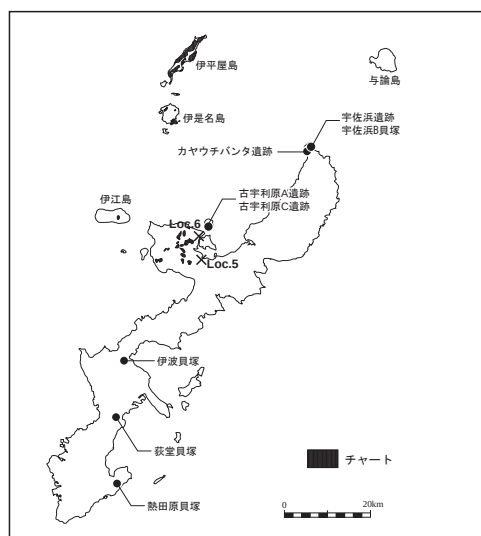
1 はじめに

伊平屋島は沖縄諸島最北端の有人島で、文化的には沖縄と奄美との接点に位置する（第1図）。考古学的に見た場合、沖縄と奄美との文化的差異が明確化するのには縄文時代後晩期のことであり、とりわけ土器型式において地域性が顕在化することが指摘されている（伊藤2008）。

伊平屋島から知られている最も古い人類の痕跡は、前泊の久里原貝塚から出土した約5,500年前の条痕文土器である。久里原貝塚からはこれに続く室川下層式、面縄前庭式や、縄文時代後晩期の土器も出土しており、（厳密な意味で連続していたかどうかは不明だが）長期にわたる人類活動が展開していたことが明らかとなっている（玉城ほか1981）。

一方、伊平屋島を含む南島における縄文時代前期から後晩期にかけての土器文化の変遷は、南島の伝統的な土器文化が、九州の土器文化の影響を受けて変容していく過程と言え、とりわけ縄文時代後期における土器の平底化や地域性の顕在化は、南島の土器文化史上においても大きな画期であった。

こうした土器文化の変動期において、伊平屋島のような沖縄—奄美境界域に位置する離島は、果たしてどのような位置を占めていたのだろうか。土器文化圏としては沖縄側に属していた伊平屋島の先史人は、島内で土器を製作していたのだろうか。あるいは島外との交易によって土器を入手し、もっぱら消



第1図 沖縄島と周辺離島におけるチャートの分布と関連遺跡・調査地点の位置



第2図 伊平屋島・伊是名島におけるチャートの分布と関連遺跡・調査地点の位置

* 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1 沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006, Japan

費する立場にあったのだろうか。また、変動期における伊平屋島の土器様相は、どのように変化したのか、あるいは変化しなかったのだろうか。

こうした問題について考える手がかりを得ることを目的として、筆者は伊平屋島の二遺跡（久里原貝塚、東原貝塚）出土の土器について、薄片観察にもとづいた胎土分析を実施するとともに、伊平屋島をはじめとする各地の土壌サンプルについても検討を加え、伊平屋島における土器供給システムの実態解明を試みた。以下ではそうした一連の分析と結果について報告するとともに、先史時代の伊平屋島をめぐるネットワークについても二三私見を述べてみたい。

2 試料と方法

今回分析対象としたのは、久里原貝塚および東原貝塚出土の土器である（遺跡の位置は第2図参照）。また、土器胎土との比較試料として、伊平屋島、伊是名島、本部半島の各地から土壌サンプルを採取し、分析を行った。

久里原貝塚は、伊平屋村前泊の標高約5mの砂丘上に立地する縄文時代前期～晩期の遺跡で、遺跡範囲は約5000m²に及び、伊平屋島屈指の拠点遺跡として知られる。1979、1980年に範囲確認調査が実施されている（伊平屋村教育委員会1981）。

東原貝塚は、伊平屋村田名の標高7～9m前後の砂丘上に立地する弥生～平安並行時代の遺跡である。1984年に範囲確認調査が実施されている（伊平屋村教育委員会1986）。

報告書非掲載資料中より久里原貝塚出土土器30点、東原貝塚出土土器6点を分析試料として選定した（表1・表2、図3～5）。土器の型式分類については、各報告書を参照した。選定したすべての資料について、ダイヤモンドカッターを用いて器面の延長方向に対して直交する切断面を作出し、胎土中に含まれる砂粒や鉱物についてデジタルマイクロスコプ（KEYENCE VHX-600）を用いて観察・記録を行った。

また、久里原貝塚出土土器30点中19点、東原貝塚出土土器6点中4点については、薄片を作成して偏光顕微鏡（Nikon ECLIPSE E200）による観察を

行った。薄片作成試料の選定にあたっては、肉眼やマイクロスコプでの観察結果を踏まえて、なるべく時期や型式、胎土の異なる試料を幅広く選定し、多様性を網羅できるよう努めた。

薄片の作成にあたっては、ダイヤモンドカッターを用いて、対象となる土器片を器面の延長方向に直交する方向にスライスし、2～3cm角程度の切片を切り出し、樹脂で固定した後、一面を研磨盤で研磨し、スライドガラスに接着した。その後、接着面の反対側から切片の厚さが約0.03mmになるまで研磨盤で研磨した。作成した薄片について、偏光顕微鏡を用いて含有鉱物の観察・同定を行った。

土器胎土との比較試料として採取した土壌サンプルについても、樹脂で固定した後薄片を作成し、土器薄片と合わせて観察を行った。土壌サンプルの採取地点は以下の6地点である（表3参照。サンプルの採取地点第1・2図のLoc.1～6に示す。試料の採取状況は第6図参照）。

- ① Loc. 1 前泊地区工事地内（伊平屋村）。久里原貝塚隣接地にて掘削工事中に露出した赤土を採取した。
- ② Loc. 2 クマヤ洞窟（伊平屋村）周辺の堆積物。洞窟外の斜面地に堆積した砂屑物を採取した。これは基盤の砂岩の風化物を主とするものと考えられた。
- ③ Loc. 3 伊是名村ふれあい民俗館南方の段丘堆積物。チャートや砂岩の礫を多く含む。
- ④ Loc. 4 千原低地（伊是名村）奥部の古砂丘の堆積物。新鮮な露頭を確認できなかったが、古砂丘に相当すると考えられる堆積物を採取した。
- ⑤ Loc. 5 呉我（今帰仁村）の凝灰岩層。呉我周辺に局所的に分布する凝灰岩層。白～灰色を呈し、シルト質～砂質である。道路のり面の露頭中から採取した。
- ⑥ Loc. 6 運天港（今帰仁村）西方の段丘堆積物。チャートや砂岩、変成岩類の円礫を多く含む段丘堆積物の細粒な部分を採取した。

3 結果

3-1 久里原貝塚出土土器（表1）

分析結果を表1に示し、デジタルマイクロスコー

表1 久里原貝塚出土土器試料リスト

番号	遺跡名	所在地	地区	層	型式	色調1	色調2	分類	薄片観察	石英	長石類	砂岩	チャート	変成岩類	角閃石	雲母類	花崗岩類	その他
001	久里原貝塚	伊平屋村	キ71	第Ⅲ層0-10	条痕文	7.5YR5/6	明褐色	B類	○	++	?	++		++				変成鉱物 φ1mm程度の大型円礫
002	久里原貝塚	伊平屋村	コ57	I層	面縄前庭式	10YR6/3	にぶい黄橙	A類	○	++		+	++					
003	久里原貝塚	伊平屋村	コ57	I層	面縄前庭式	2.5YR3/3	暗赤褐色	A類	○	++			++			?		セリサイト?
004	久里原貝塚	伊平屋村	コ57	I層	面縄前庭式	2.5YR5/6	明赤褐色	A類	○	++		+	++			?		セリサイト?
005	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	8/2	仲泊式	10YR7/6	明黄褐色	A類	○	+++		++	++					
006	久里原貝塚	伊平屋村	キ71	2/2	仲泊式	7.5YR6/6	橙	A類	○	+++		++	++					
007	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	3/1	仲泊式	10YR6/3	にぶい黄橙	A類	○	+++		++	++					
008	久里原貝塚	伊平屋村	コ56	I層1/6	面縄東洞式	7.5YR3/3	暗褐色	A類	○	+++		+	+++			?		セリサイト?
009	久里原貝塚	伊平屋村	コ48	I層	面縄東洞式	7.5YR4/3	褐色	A類	×									
010	久里原貝塚	伊平屋村	コ49	I 1/4	荻堂式	5YR5/6	明赤褐色	A類	○	+++		+	+++					
011	久里原貝塚	伊平屋村	コ49	I 1/4	荻堂式	7.5YR5/4	にぶい褐	A類	×									
012	久里原貝塚	伊平屋村	コ49	I 1/4	面縄西洞式	5YR4/4	にぶい赤褐	C類	○	+++	+					+		黒雲母
013	久里原貝塚	伊平屋村	ネ61	I	荻堂式?	5YR5/4	にぶい赤褐	A類	×									
014	久里原貝塚	伊平屋村	カ67	V層5/2	喜念I式	10YR5/6	黄褐色	C類	○	++	?					+++	++	
015	久里原貝塚	伊平屋村	カ67	Ⅲ層3/3	喜念I式	10YR5/4	にぶい黄褐	C類	○	++	+	+				+		
016	久里原貝塚	伊平屋村	カ67	5/2	室川式	7.5YR4/3	褐色	A類	○	++		+	+++					
017	久里原貝塚	伊平屋村	カ67	Ⅲ層3/1	喜念I式	7.5YR5/4	にぶい褐	B類	○	++	+			+	+			
018	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	7/2	字座浜式	5YR5/6	明赤褐色	A類	×									
019	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	7/2	字座浜式	2.5YR4/8	赤褐	A類	○	++		+	++					
020	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	7/2	カヤウチパ ンタ式?	2.5YR4/4	にぶい赤褐	A類	○	+		+	++					
021	久里原貝塚	伊平屋村	カ67	V層20-30	室川式?	5YR5/4	にぶい赤褐	A類	×									
022	久里原貝塚	伊平屋村	コ49	I層1/3	喜念I式	5YR5/3	にぶい赤褐	C類	×							+		
023	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	Ⅱ層落込下 部	カヤウチパ ンタ式?	2.5YR5/8	明赤褐色	A類	×									
024	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	Ⅱ層落込下	室川式	2.5YR5/8	明赤褐色	A類	×									
025	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	Ⅱ層落込下	喜念I式	2.5YR4/6	赤褐	C類	○	++	+	+				+		
026	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	Ⅱ層落込下	字座浜式?	2.5YR5/6	明赤褐色	A類	×									
027	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	Ⅱ層落込下	仲泊式	10YR8/4	浅黄橙	A類	×									
028	久里原貝塚	伊平屋村	キ71	Ⅱ層2/2	字座浜式?	5YR5/4	にぶい赤褐	A類	×									
029	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	Ⅱ層落込	カヤウチパ ンタ式?	2.5YR5/8	明赤褐色	A類	○	+		?	++					
030	久里原貝塚	伊平屋村	カ71	2/1	カヤウチパ ンタ式?	2.5YR4/6	赤褐	A類	○	+			++					

※表中の+++は多量、++は普通、+は稀を示す。?は同定不確定なもの。

※「色調」は新版標準土色帖（2007年版）による

表2 東原貝塚出土土器試料リスト

番号	遺跡名	所在地	地区	層	型式	色調1	色調2	分類	薄片観察	石英	長石類	砂岩	チャート	変成岩類	角閃石	雲母類	花崗岩類	その他
001	東原貝塚	伊平屋村	イー1	ⅡA層528	後期系（隆 帯文）	2.5YR6/6	橙	D類	○	++		+	+					細粒・粘土質
002	東原貝塚	伊平屋村	不明		後期系（隆 帯文）	2.5YR5/4	にぶい赤褐	?	×									
003	東原貝塚	伊平屋村	B-23	I層0-25	後期系（隆 帯文）	2.5YR5/8	明赤褐	?	×									
004	東原貝塚	伊平屋村	メー43	Ⅱ層18	後期系（平 底）	2.5YR6/6	橙	D類	○	++	+	+	+					
005	東原貝塚	伊平屋村	Ⅱ次キ ー3	I層	後期系（平 底）	2.5YR6/6	橙	D類	○	++		++	+				?	
006	東原貝塚	伊平屋村	Ⅱ次A ー1517		後期系（乳 房状尖底）	2.5YR6/6	橙	D類	○	++		+	+					

※表中の+++は多量、++は普通、+は稀を示す。?は同定不確定なもの。

※「色調」は新版標準土色帖（2007年版）による

表3 土壌試料リスト

番号	資料の種類	地点名	所在地	石英	長石類	砂岩	チャート	変成岩類	角閃石	雲母類	花崗岩類	火山ガラス	生砕物
Loc. 1	赤土	前泊地区工事地内	伊平屋村	++		+	+++						
Loc. 2	赤土	クマヤ洞窟周辺の堆積物	伊平屋村	+++	+								
Loc. 3	礫混じり赤土	伊是名村ふれあい民俗館南方 の段丘堆積物	伊是名村	+++		++	+						
Loc. 4	砂粒	千原低地奥部古砂丘	伊是名村	+++	+	+	+	+		+			++
Loc. 5	凝灰岩層	呉我	今婦仁村		++				+			+++	
Loc. 6	砂粒混じり赤土	運天港西方の段丘堆積物	今婦仁村	++		+	+++	+					

※表中の+++は多量、++は普通、+は稀を示す。



第3図 久里原貝塚 分析資料1



第4図 久里原貝塚 分析資料2



第5図 東原貝塚 分析資料

プ写真を第7～11図に、偏光顕微鏡写真を第13～16図に示す。

久里原貝塚出土土器の胎土は、チャートを含むものと含まないものとに大別できる。薄片観察を行った19例について見ると、前者は13例、後者は6例で、前者には砂岩を伴うものが多い。後者には変成岩類を含むものと、長石や雲母類を含むものが認められた。変成岩類を特徴とするのは条痕文土器の胎土であり、長石や雲母類は面縄西洞式や喜念Ⅰ式といったいわゆる奄美系土器に見られ、花崗岩類に由来す

る可能性が考えられる。

以上をまとめると、久里原貝塚出土土器は以下の三者に分類することができる。

A類 チャートを含む胎土

B類 変成岩類を含む胎土

C類 長石、雲母類を含む胎土

なお、今回の分析の結果から、長石や雲母類は奄美系土器に特徴的に見られる鉱物と言えるが、肉眼観察やデジタルマイクロスコープでの観察では、長石や雲母類の含有を認識することが難しい場合もあ



久里原貝塚の遠景



Loc.1



Loc.2



Loc.3



Loc.4



Loc.5



Loc.5

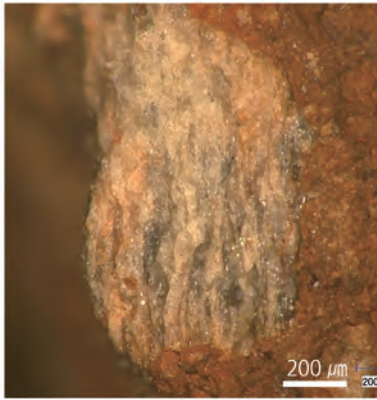


Loc.6

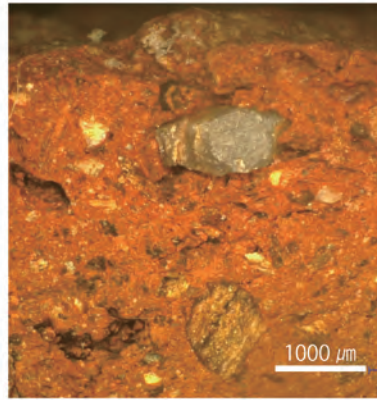


Loc.6

第6図 久里原貝塚遠景および土壌サンプル採取地点（Loc.1～6）写真



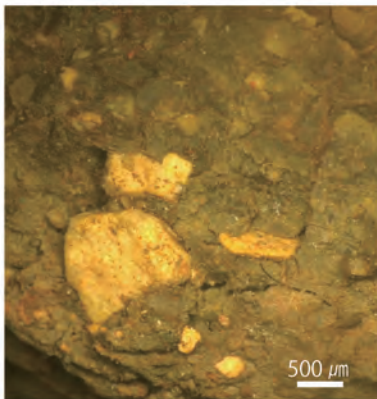
No. 001 片状組織の見られる岩片。



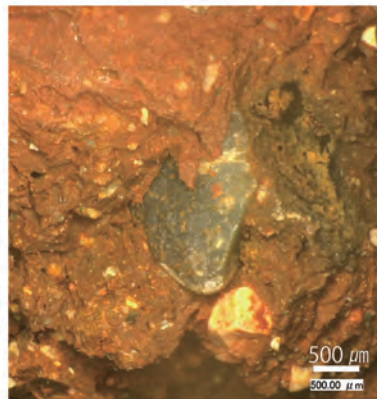
No. 001 片状組織の見られる岩片 (下) と石英 (上)。



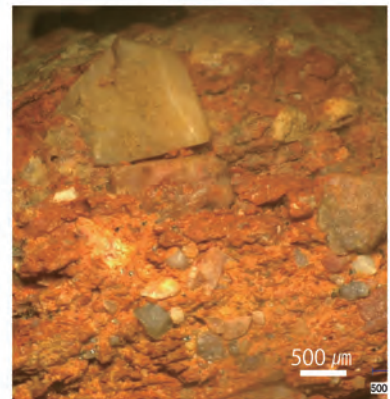
No. 002 チャート円礫、垂角礫が多く見られる。



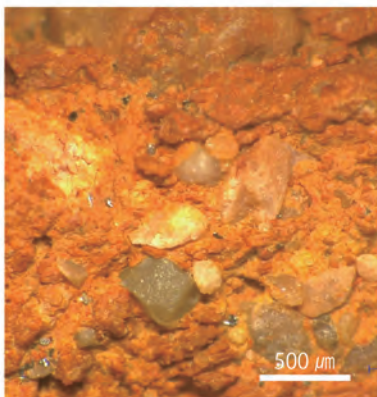
No. 002 チャート礫が多く見られる。



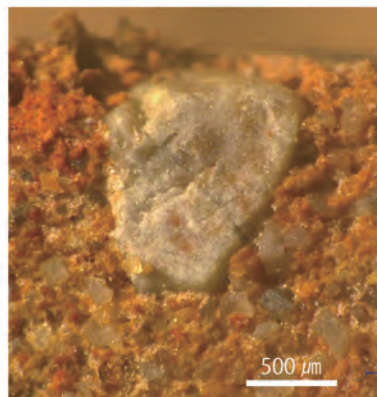
No. 003 チャート垂角礫。



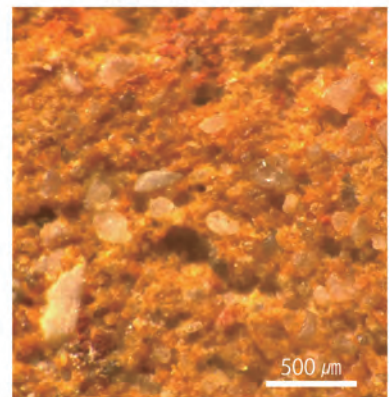
No. 004 チャート垂角礫、円礫が多く見られる。



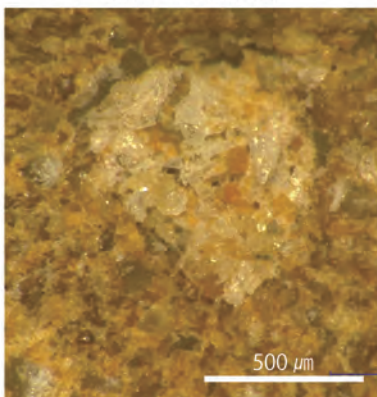
No. 004 チャート礫、石英、不透明鉱物が多く見られる。



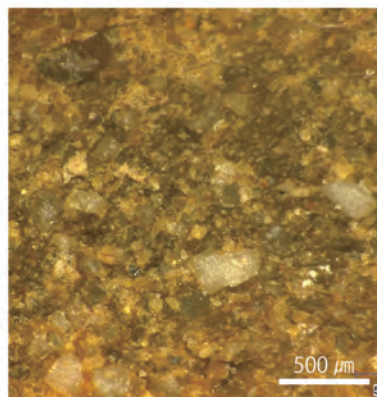
No. 005 チャート礫 (中央)、細粒の石英が多く見られる。



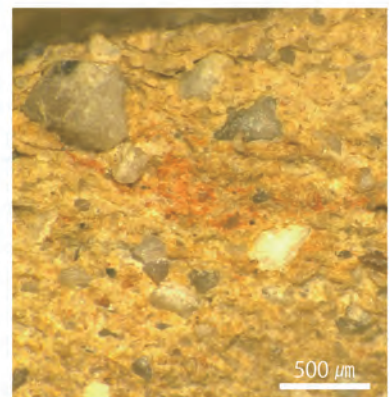
No. 005 細粒の石英が多く見られる。



No. 006 砂岩 (中央)。

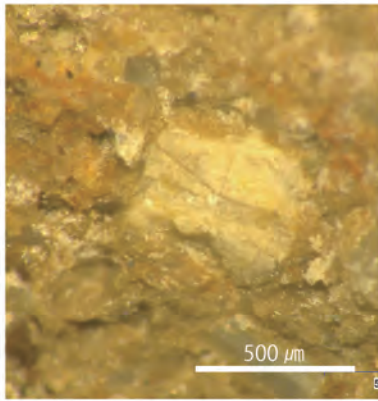


No. 006 細粒の石英が多く見られる。

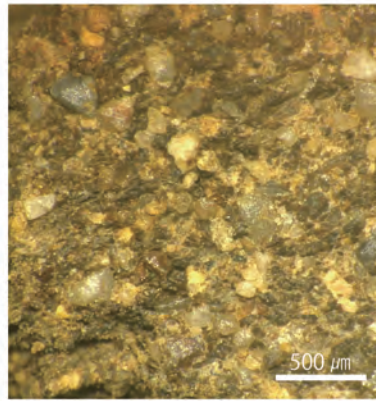


No. 007 石英が多く見られる。

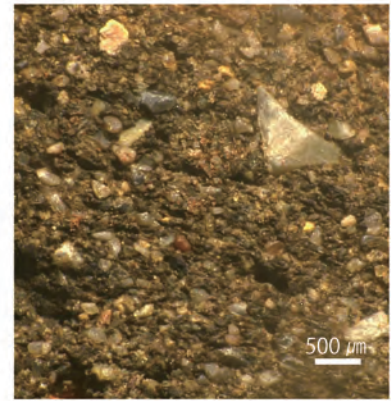
第7図 久里原貝塚 分析試料のマイクロスコープ写真 (1)



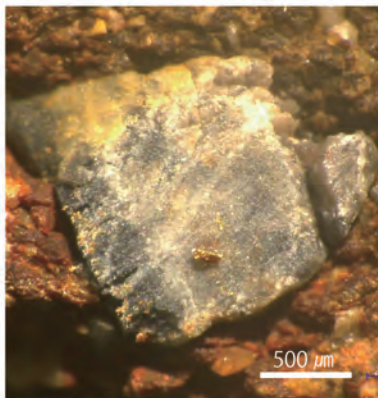
No. 007 チャート円礫（中央）。



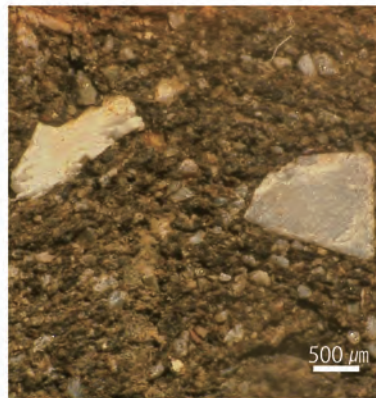
No. 008 細粒の石英が多く見られる。



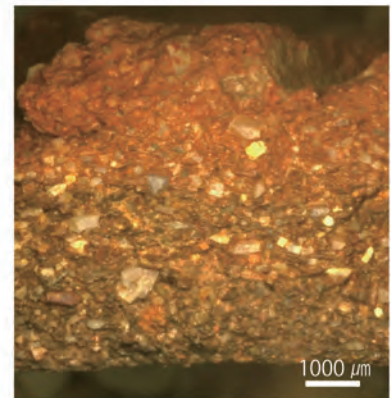
No. 008 細粒の石英、チャートが多く見られる。



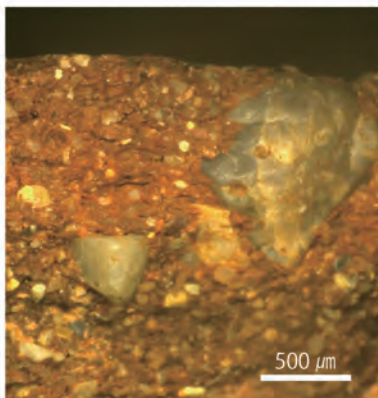
No. 009 粗粒のチャート亜角礫。



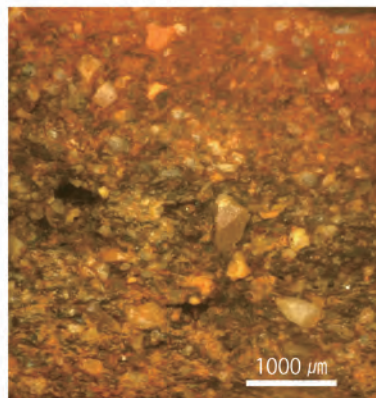
No. 009 粗粒のチャート亜角礫と細粒の石英。



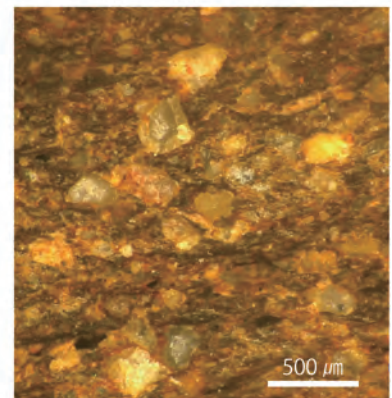
No. 010 細粒のチャート、石英が多く見られる。



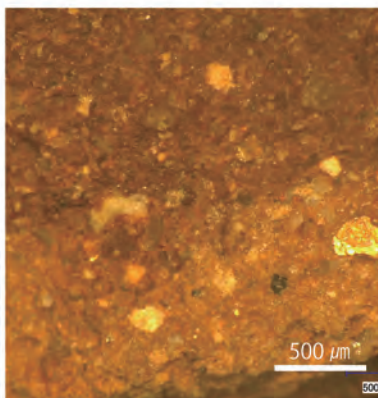
No. 010 粗粒のチャート礫。



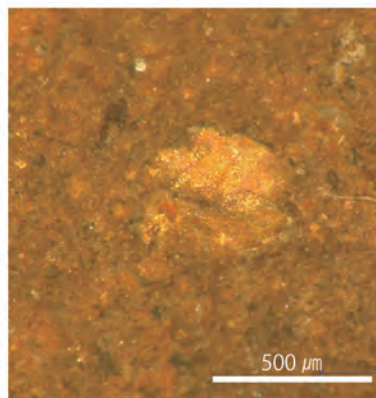
No. 011 石英が多く見られる。



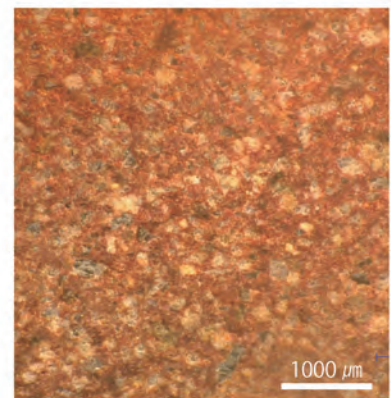
No. 011 細粒の石英が多く見られる。



No. 012 白斑状の鉱物（長石類？）が見られる。

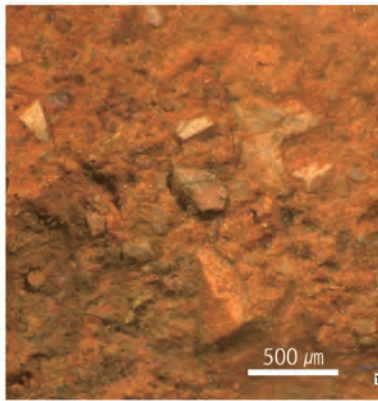


No. 012 雲母類？

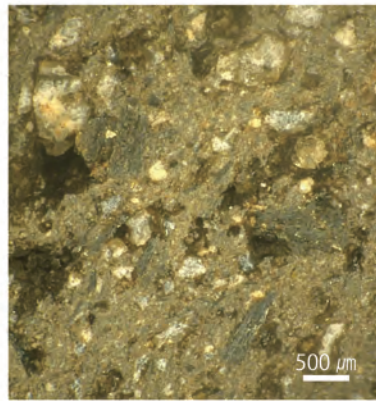


No. 013 細粒の石英が多く見られる。

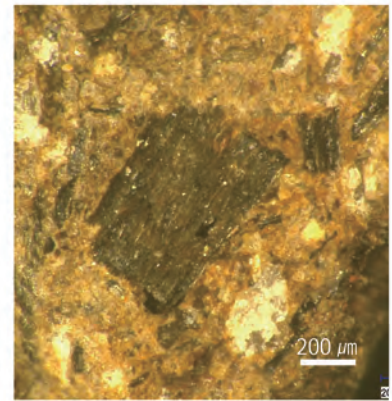
第8図 久里原貝塚 分析試料のマイクロスコープ写真（2）



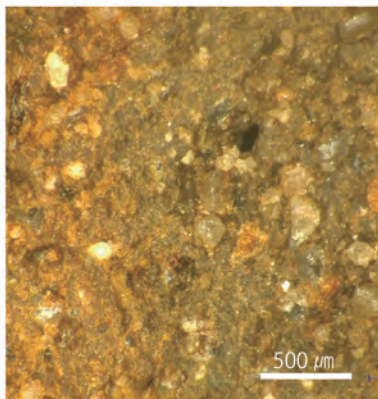
No. 013 チャート角礫。



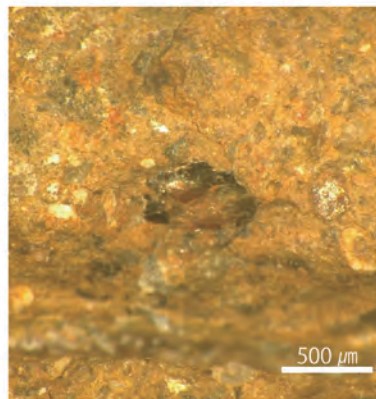
No. 014 石英と雲母類（黒色板状の鉱物）が多く見られる。



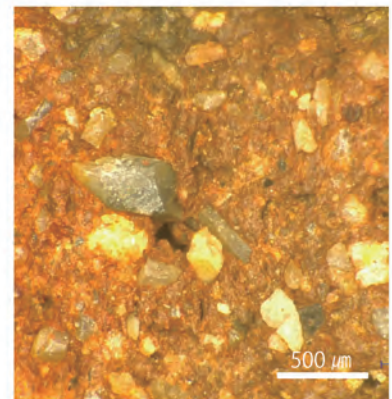
No. 014 粗粒の黒雲母（中央）。



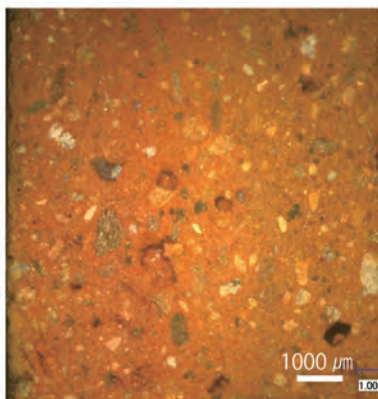
No. 015 細粒の石英が多く見られる。



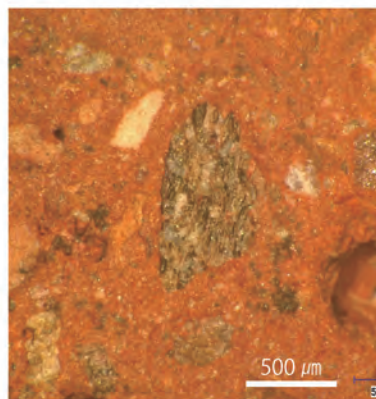
No. 015 雲母類（中央）。



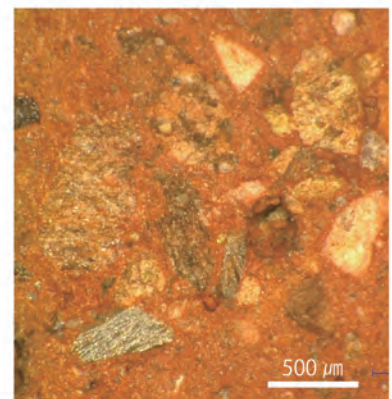
No. 016 チャート、石英が多く見られる。



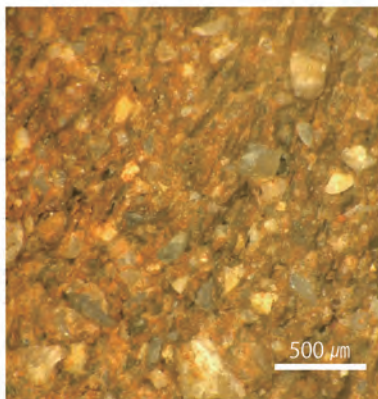
No. 017 雑色の礫が多く見られる。



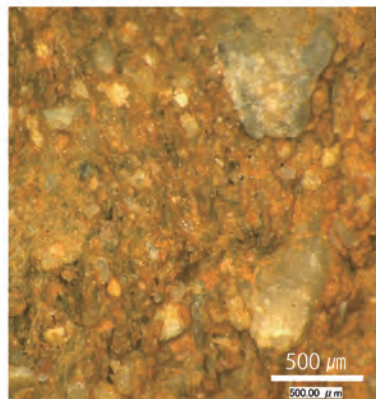
No. 017 片状組織の見られる岩片（中央）。



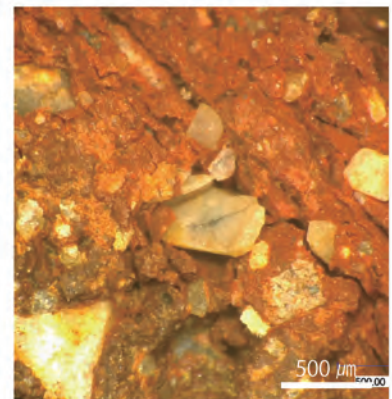
No. 017 片状組織の見られる岩片。



No. 018 チャート礫が多く見られる。

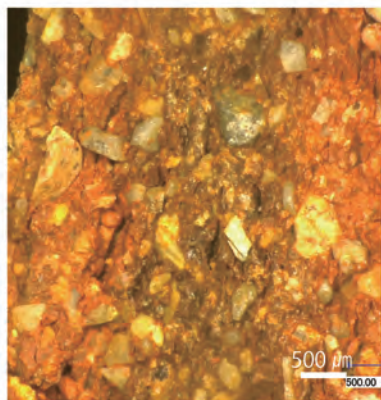


No. 018 チャート、石英が多く見られる。

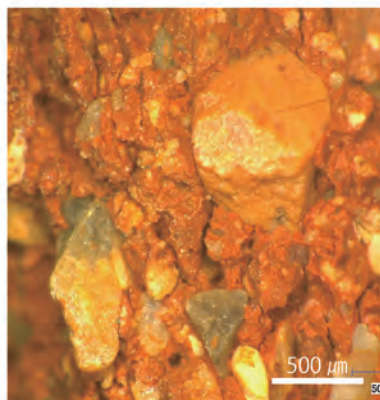


No. 019 チャート角礫（中央）。

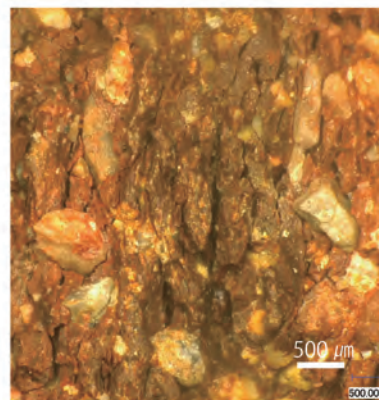
第9図 久里原貝塚 分析試料のマイクロスコープ写真 (3)



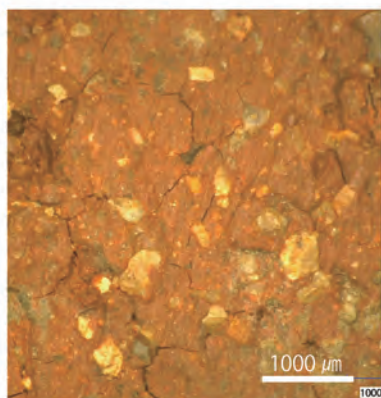
No. 020 チャートが多く見られる。



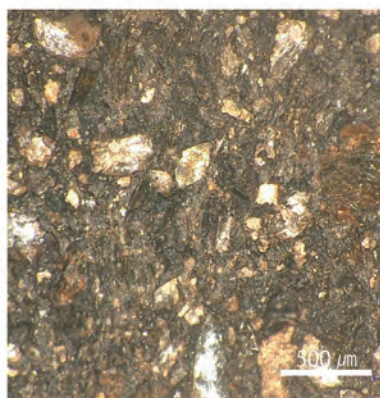
No. 020 チャートが多く見られる。



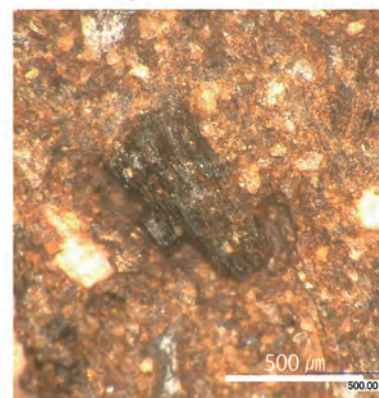
No. 021 チャート、石英が多く見られる。



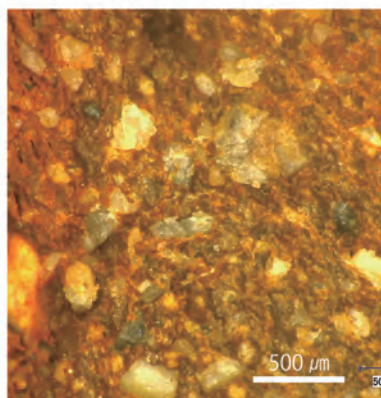
No. 021 チャート、石英が多く見られる。



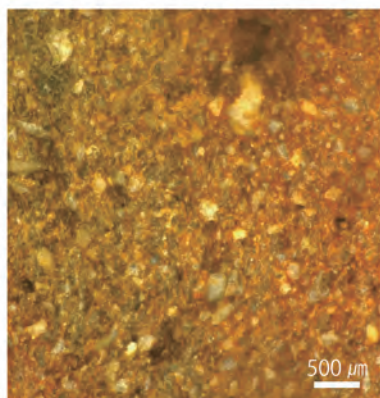
No. 022 石英、雲母類が多く見られる。



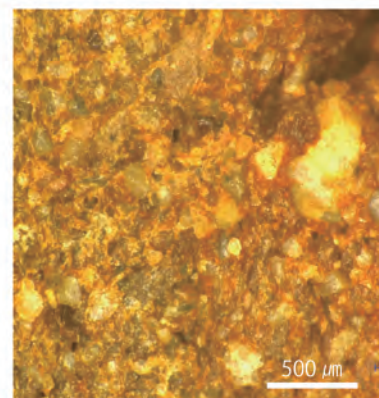
No. 022 黒雲母 (中央)。



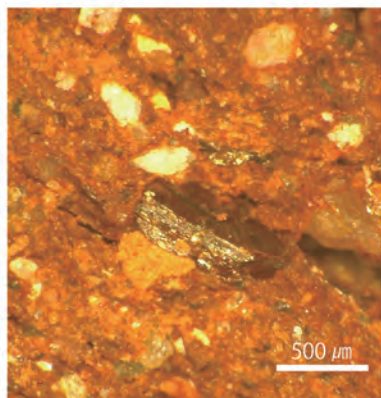
No. 023 チャート、石英が多く見られる。



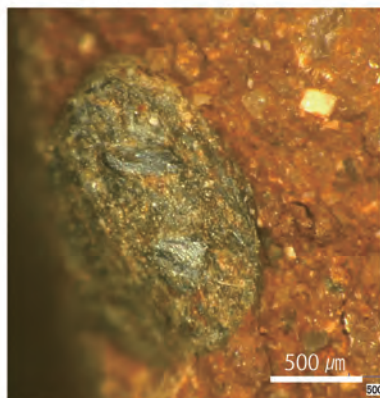
No. 024 チャート、石英が多く見られる。



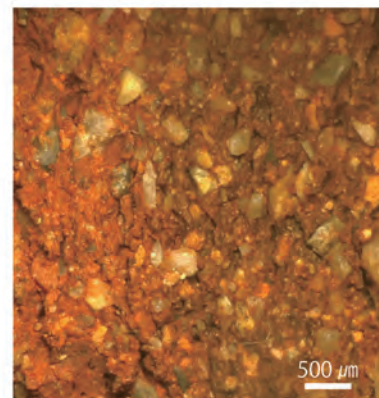
No. 024 チャート、石英が多く見られる。



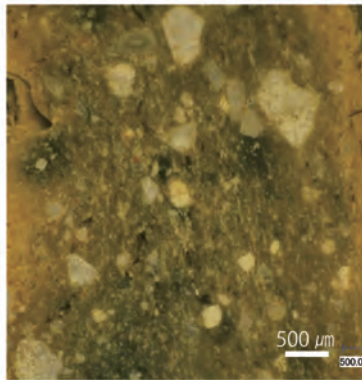
No. 025 黒雲母 (中央)。



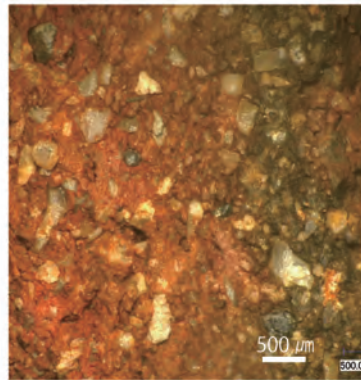
No. 025 粗粒の黒雲母？



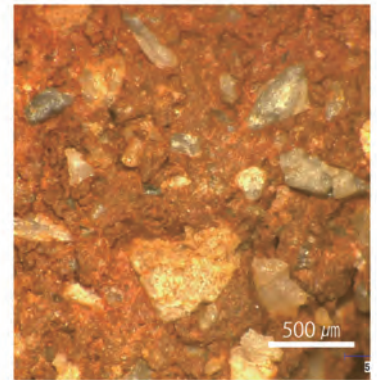
No. 026 チャート、石英が多く見られる。



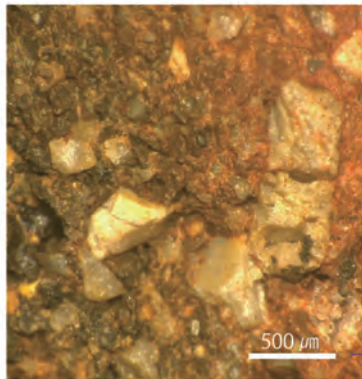
No. 027 石英が多く見られる。



No. 028 チャート、石英が多く見られる。



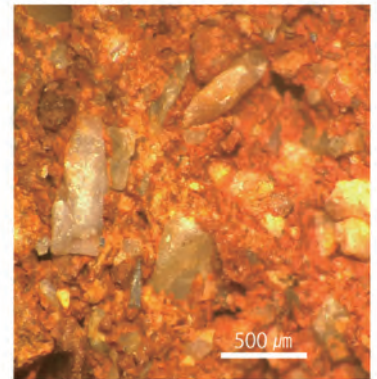
No. 028 チャート、石英が多く見られる。



No. 029 チャートが多く見られる。

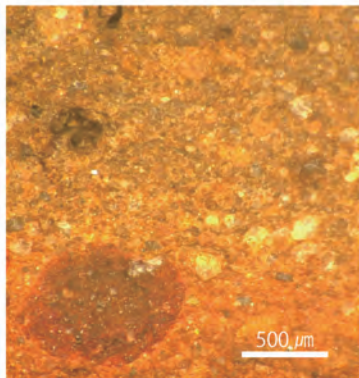


No. 030 チャート、石英が多く見られる。

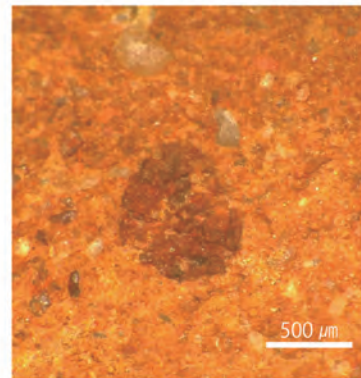


No. 030 チャート、石英が多く見られる。

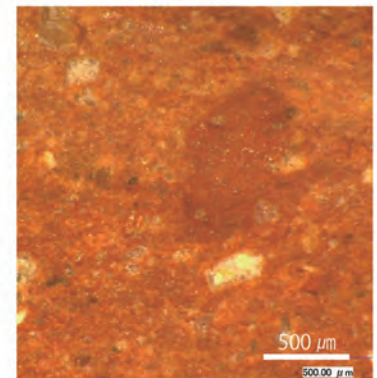
第11図 久里原貝塚 分析試料のマイクロスコープ写真 (5)



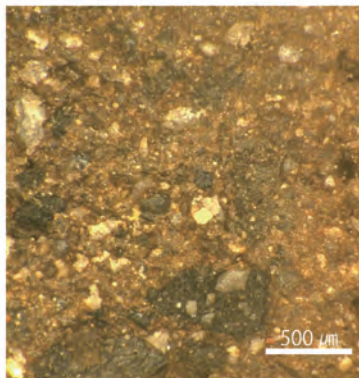
No. 001 石英が多く見られる。左下は粘土粒？



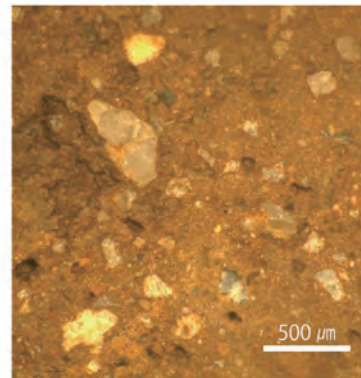
No. 002 石英が多く見られる。中央は粘土粒？



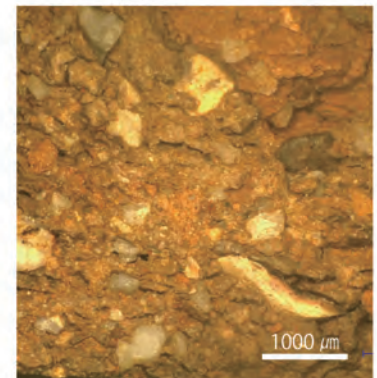
No. 003 石英が多く見られる。中央は粘土粒？



No. 004 石英が多く見られる

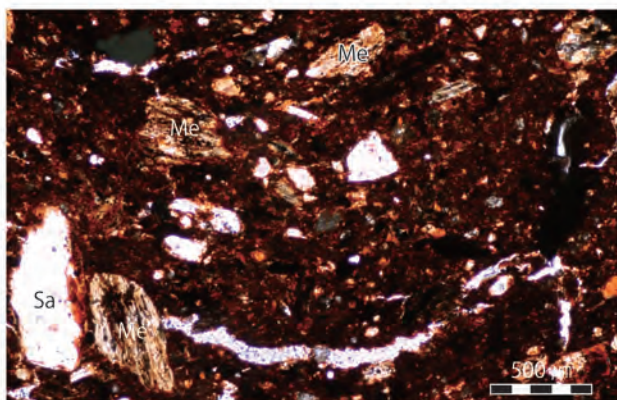


No. 005 石英が多く見られる。

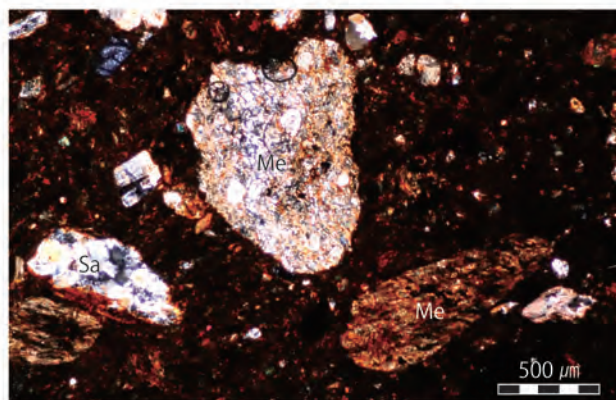


No. 006 チャート、石英が多く見られる

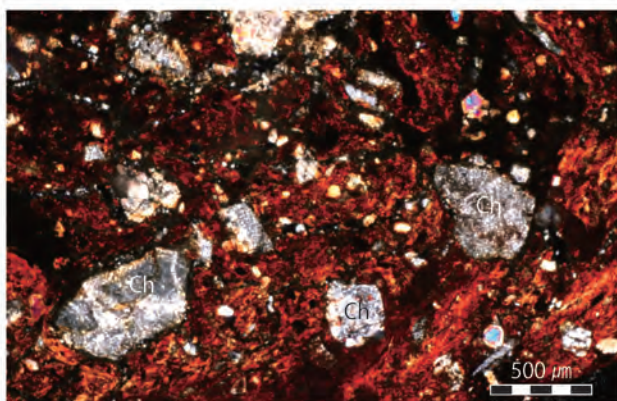
第12図 東原貝塚 分析試料のマイクロスコープ写真



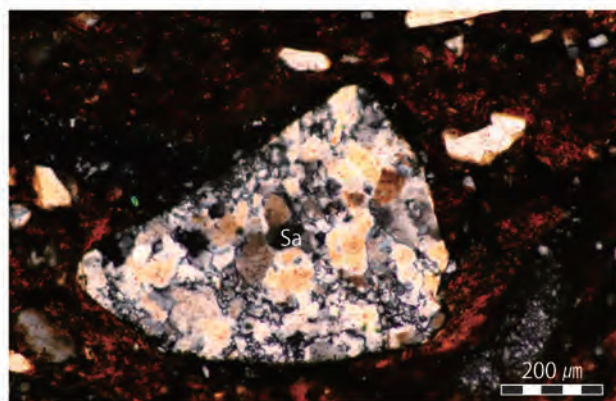
No. 001 変成岩 (Me)、砂岩 (Sa) を含む。平行ポーラー。



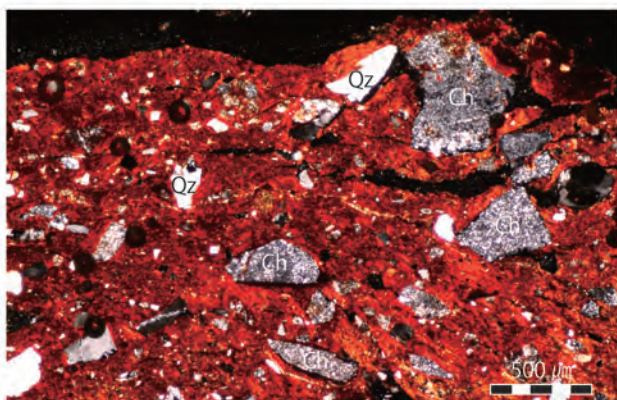
No. 001 変成岩 (Me)、砂岩 (Sa) を含む。直交ポーラー。



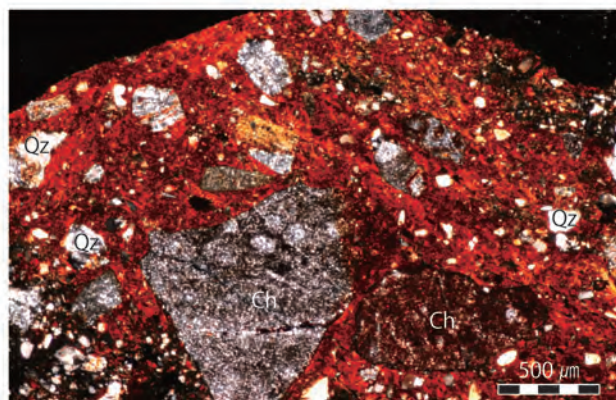
No. 002 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



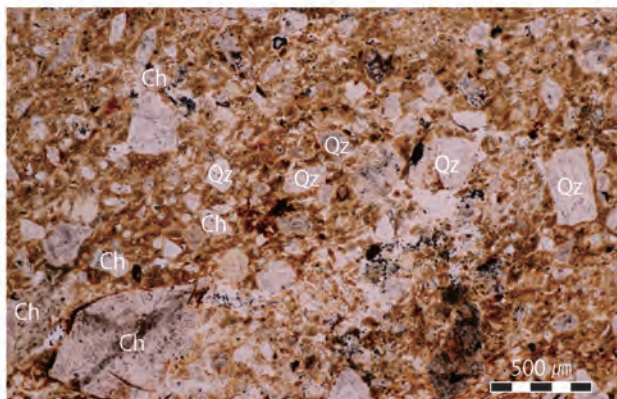
No. 002 砂岩 (Sa)。直交ポーラー。



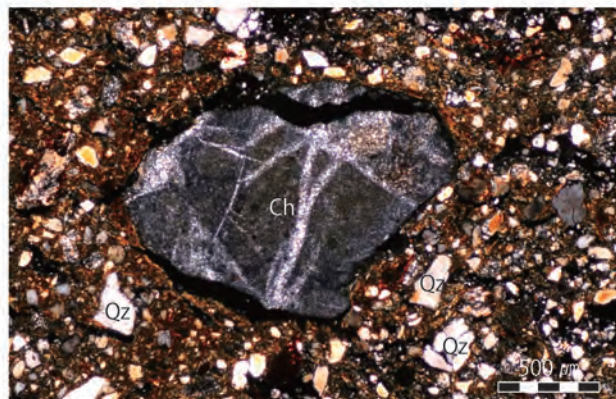
No. 003 石英 (Qz)、チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



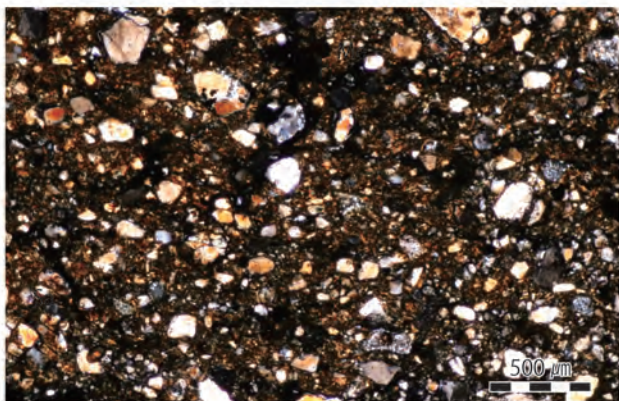
No. 004 石英 (Qz)、チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



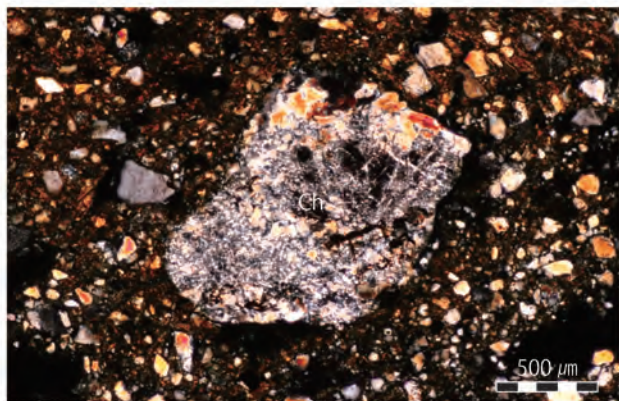
No. 005 石英 (Qz)、チャート (Ch) を多く含む。平行ポーラー。



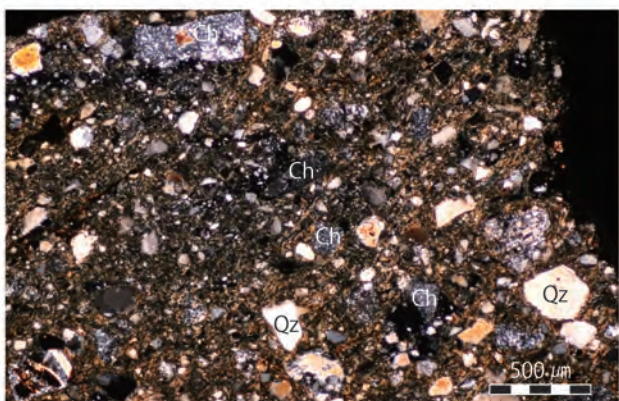
No. 005 石英 (Qz)、チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



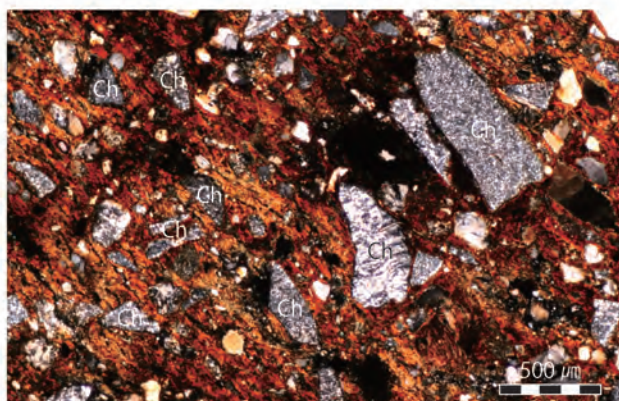
No. 006 細粒の石英・チャートを多く含む。直交ポーラー。



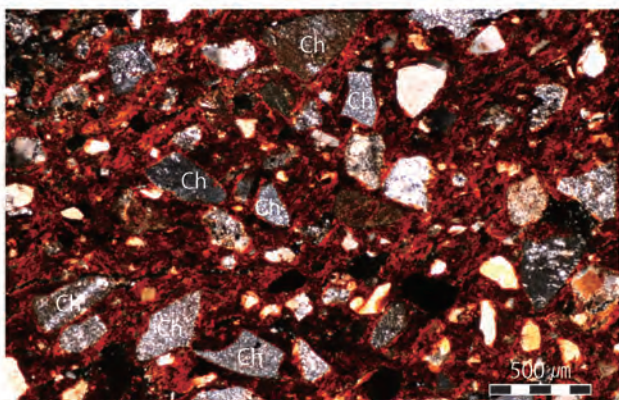
No. 006 粗粒のチャート (Ch)。直交ポーラー。



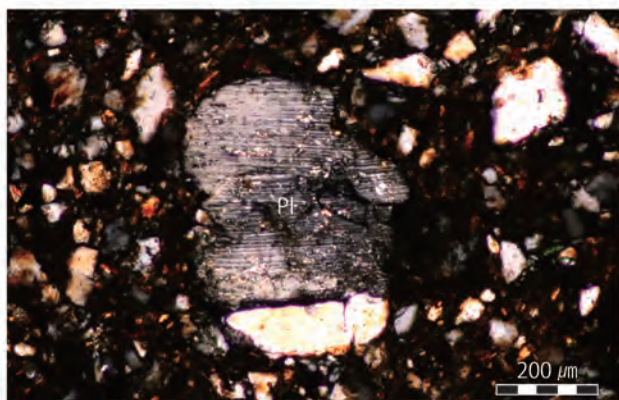
No. 007 石英 (Qz)、チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



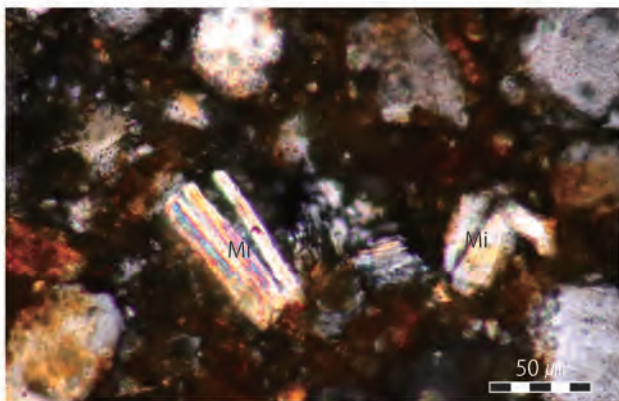
No. 008 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



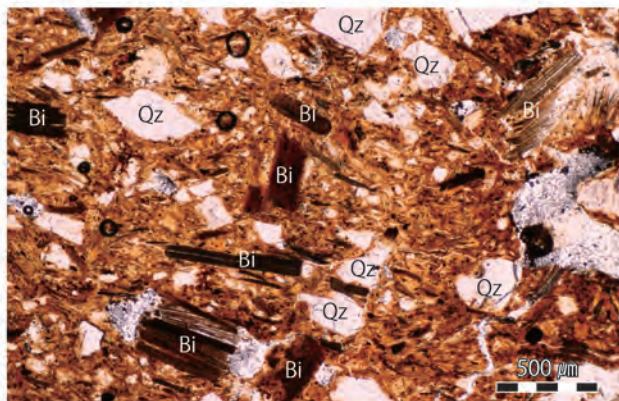
No. 010 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



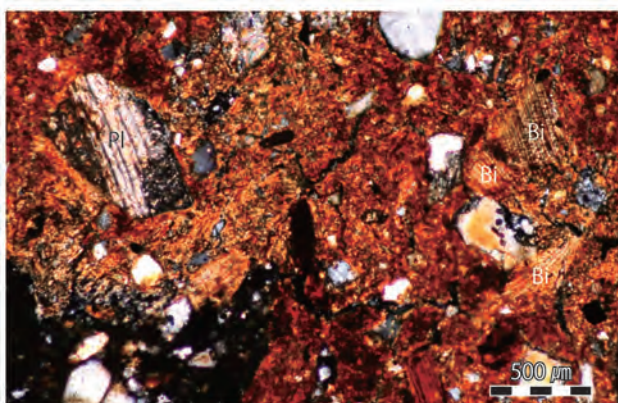
No. 012 斜長石 (Pl)。直交ポーラー。



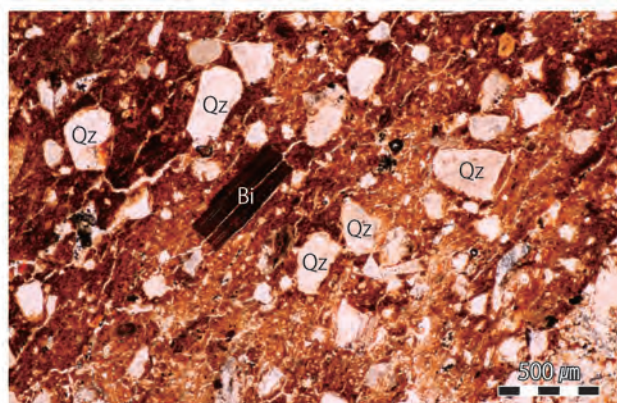
No. 012 雲母類 (Mi)。直交ポーラー。



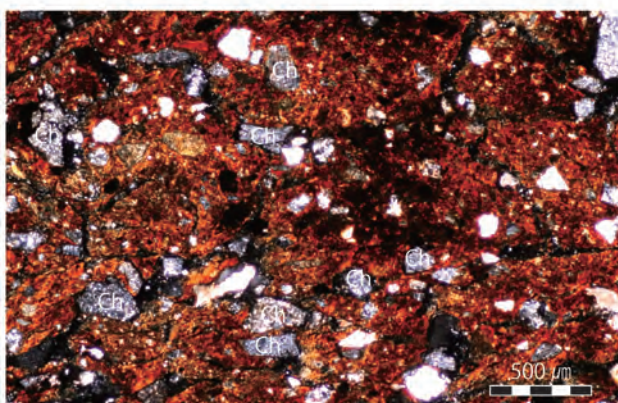
No. 014 石英 (Qz)、黒雲母 (Bi) を多く含む。平行ポーラー。



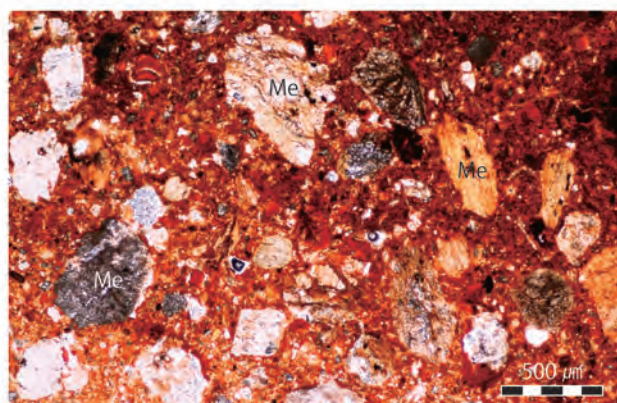
No.015 斜長石 (Pl)、黒雲母 (Bi) を含む。直交ポーラー。



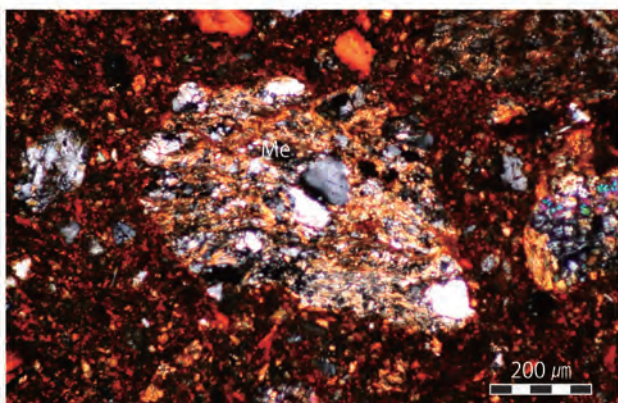
No.015 石英 (Qz)、黒雲母 (Bi) を含む。平行ポーラー。



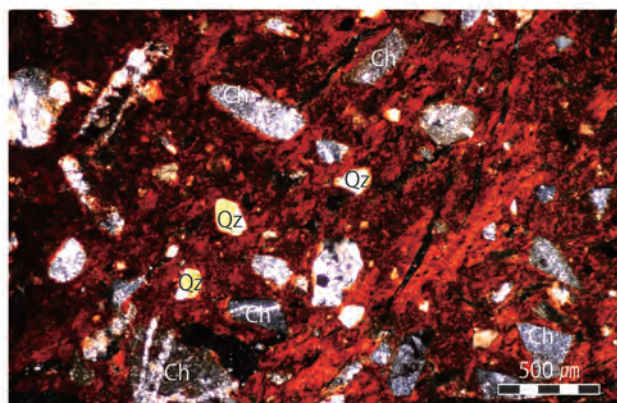
No.016 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



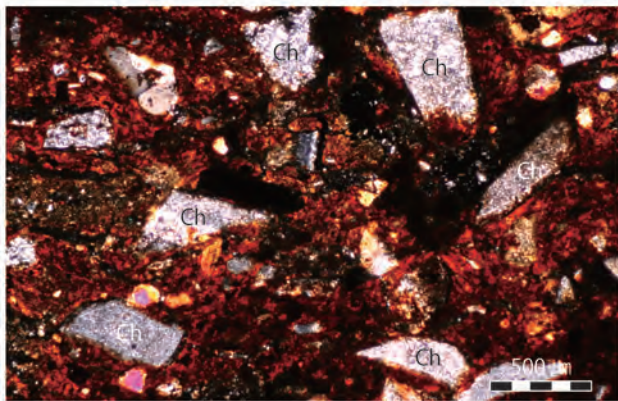
No.017 変成岩類 (Me) を含む。平行ポーラー。



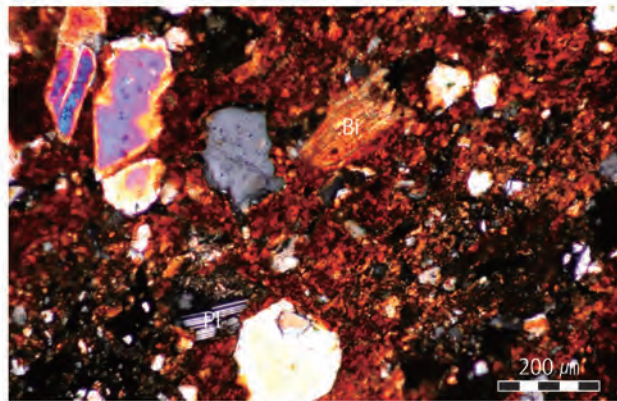
No.017 変成岩類 (Me)。直交ポーラー。



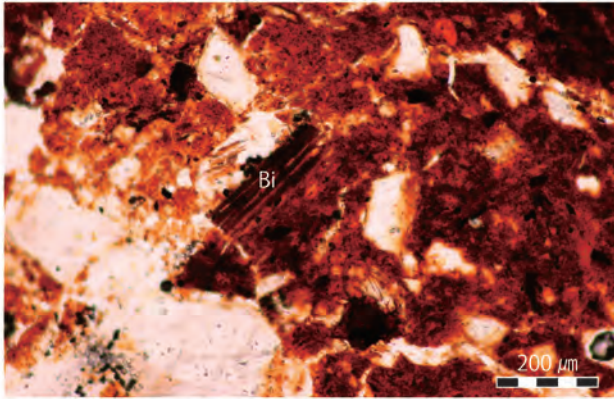
No.019 石英 (Qz)、チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



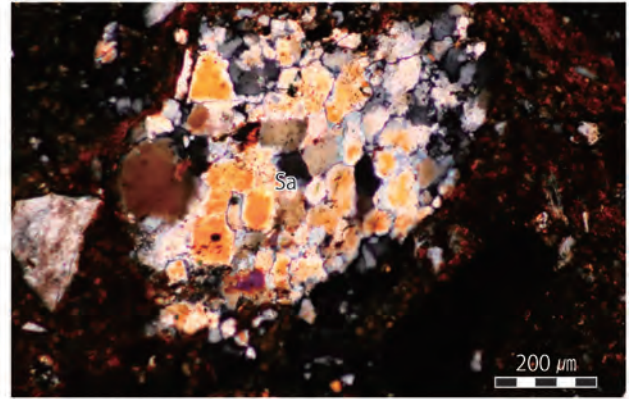
No.020 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



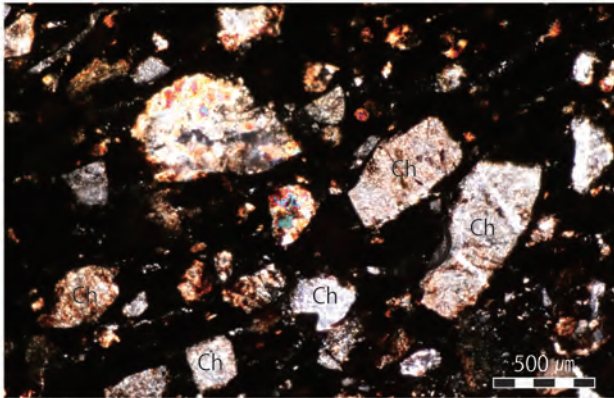
No.025 斜長石 (Pl)、黒雲母 (Bi) を含む。直交ポーラー。



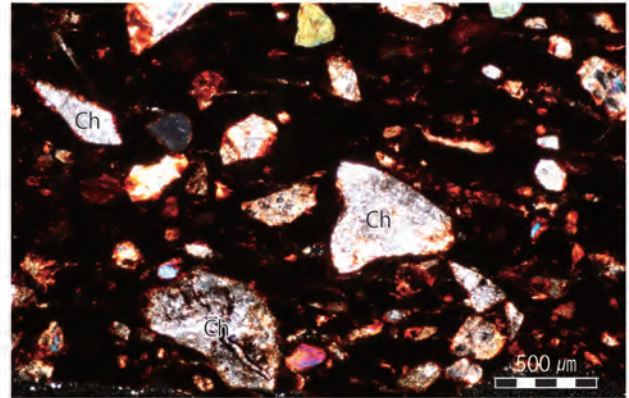
No.025 黒雲母 (Bi)。平行ポーラー。



No.025 砂岩 (Sa)。直交ポーラー。



No.029 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



No.030 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。

第16図 久里原貝塚 分析試料薄片の偏光顕微鏡写真 (4)

り、注意が必要である。

3-2 東原貝塚出土土器 (表2)

分析結果を表2に示し、デジタルマイクロスコープ写真を第12図に、偏光顕微鏡写真を第17図に示す。いずれもチャートを含むが、久里原貝塚のA類に比べると含有量は多くない。今回は東原貝塚の胎土を一括してD類とした。なお、東原貝塚出土土器の色調は久里原貝塚出土土器とはやや異なり、橙色を呈するものが多い。

3-3 土壌サンプル (表3)

分析結果を表3に示し、偏光顕微鏡写真を第18図に示す。前泊地区工事地内、伊是名村ふれあい民族館南方、運天港西方の試料はチャートや砂岩を含む点で類似したものであったが、含有量はそれぞれ異なる。クマヤ洞窟周辺で採取した堆積物は、基盤の砂岩に由来すると考えられる石英を多く含み、チャートと同定できる岩片は含まれていなかった。伊是名村千原低地奥部の古砂丘から採取した堆積物に

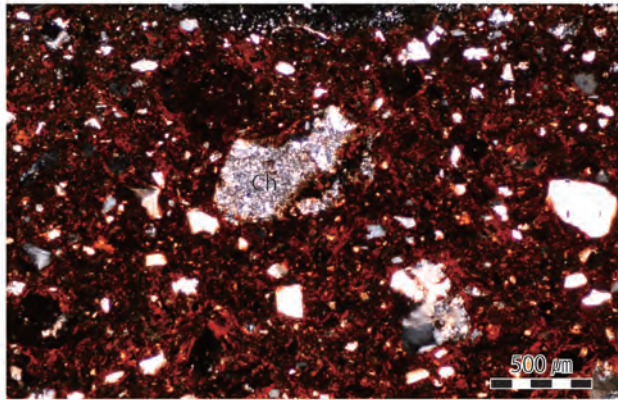
は、チャート、砂岩、変成岩類のほか、生砕物が多く含まれていた。今帰仁村呉我の凝灰岩層から採取したサンプル中には、火山ガラスや長石、有色鉱物が含まれていた。

4 考察

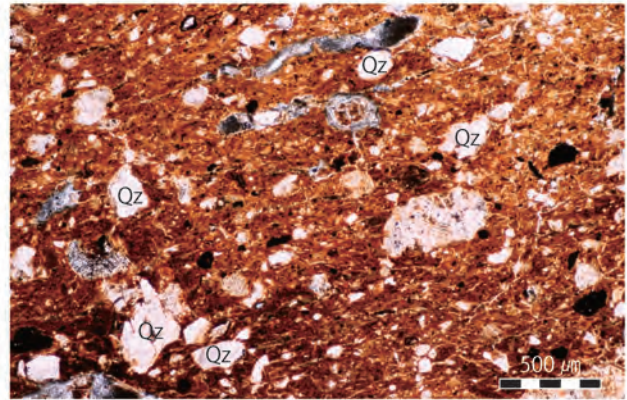
4-1 A類胎土 (CRF) について

胎土の観察および薄片観察の結果、久里原貝塚および東原貝塚の土器胎土は、A類：チャートを多く含む胎土、B類：変成岩類を含む胎土、C類：長石、雲母類を含む胎土、D類：チャート含む胎土の4者に分類することができた。中でもチャートを含むA類およびD類胎土が、両遺跡において主体を占めていることは注目される (表4)。

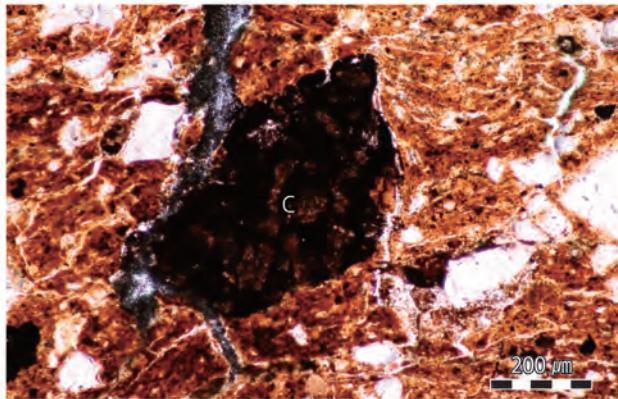
地質の上では、チャートは沖縄島の本部半島と伊平屋島、伊是名島を含む周辺離島に分布しており、A類胎土の土器は、これらの地域で製作されたか、これらの地域で採取された原料から製作されたと考えられる。A類が伊平屋島で製作されたかどうかにか



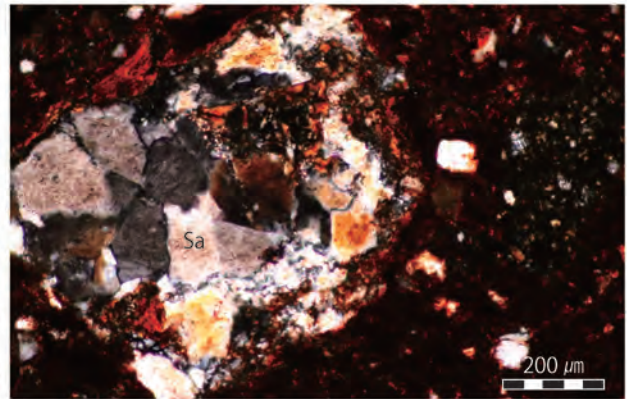
No. 001 石英・チャート (Ch) を含む。直交ポーラー。



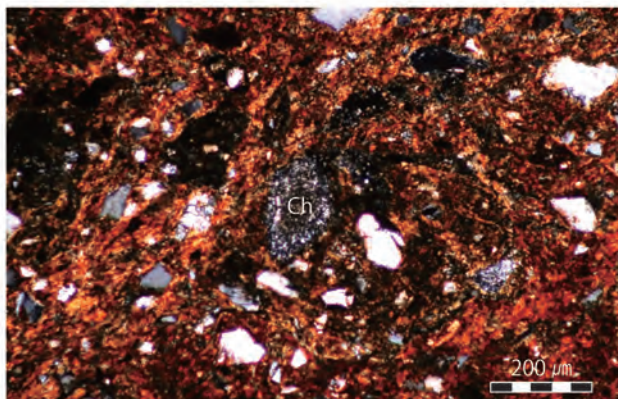
No. 004 石英 (Qz) を多く含む。平行ポーラー。



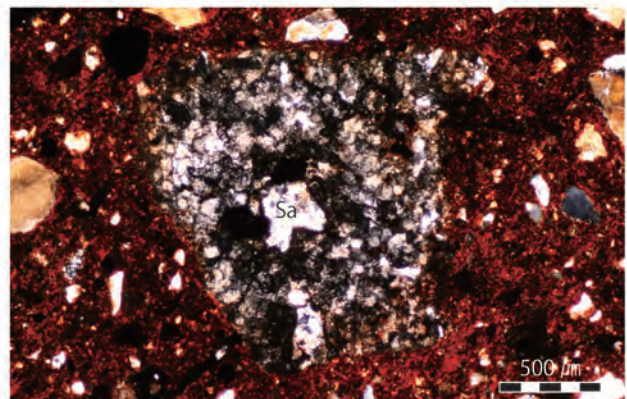
No. 004 粘土粒 (C) か。平行ポーラー。



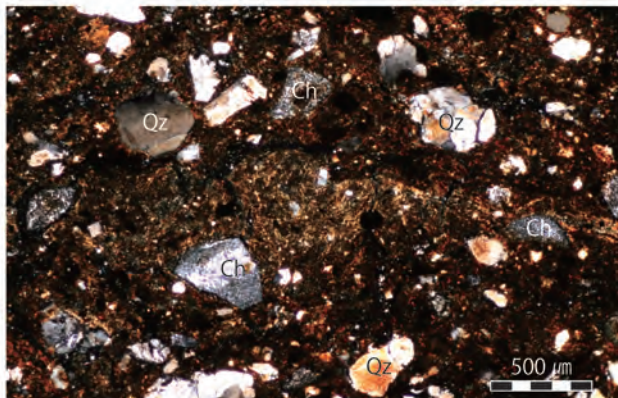
No. 004 砂岩 (Sa)。直交ポーラー。



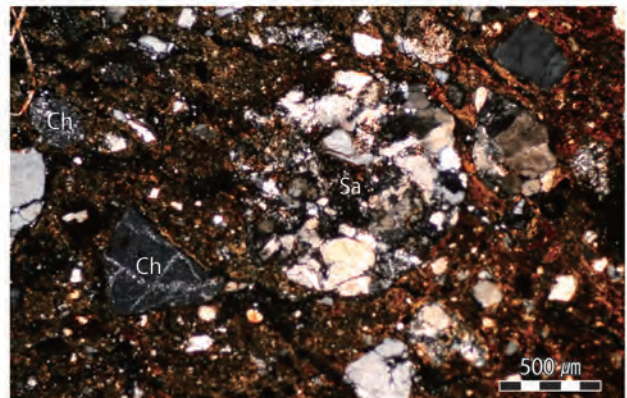
No. 004 チャート (Ch)。直交ポーラー。



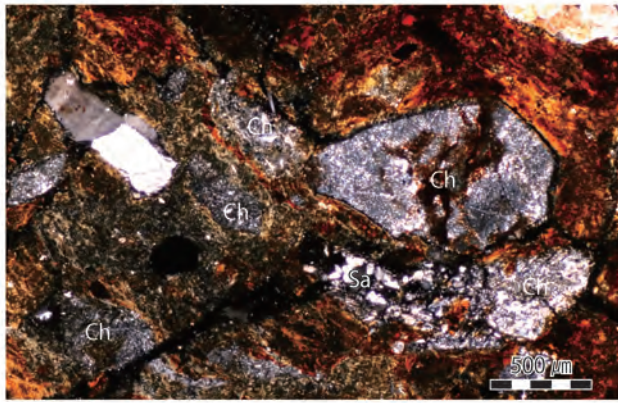
No. 005 砂岩 (Sa)。直交ポーラー。



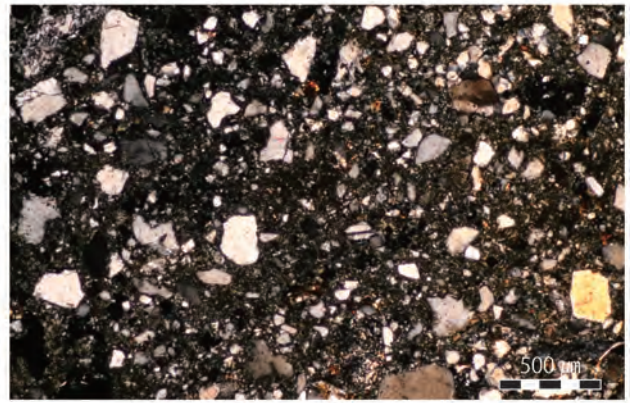
No. 006 石英 (Qz)、チャート (Ch) を含む。直交ポーラー。



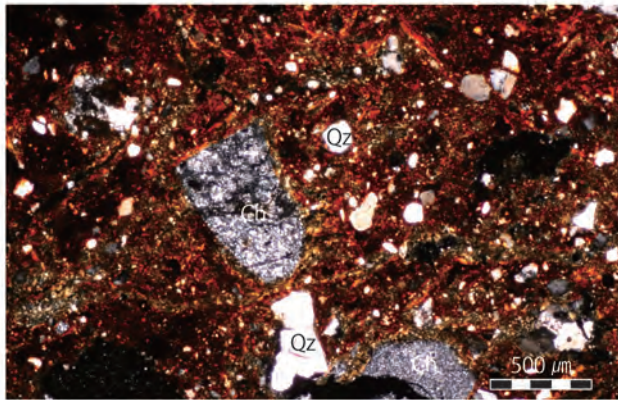
No. 006 チャート (Ch)、砂岩 (Sa) を含む。直交ポーラー。



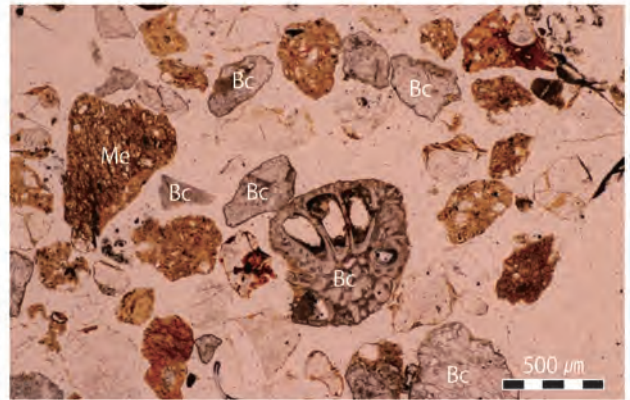
Loc.1 チャート (Ch)、砂岩 (Sa) を含む。直交ポーラー。



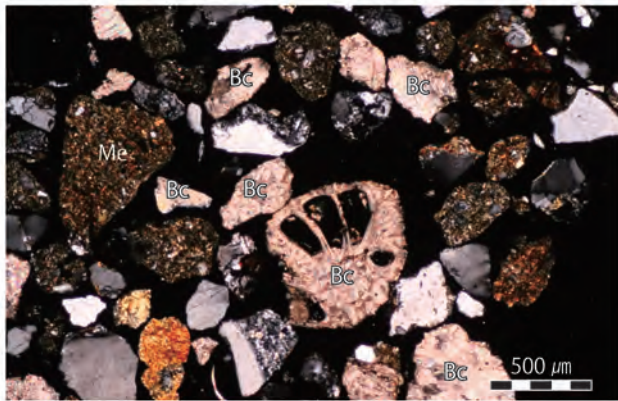
Loc.2 石英を多く含む。直交ポーラー。



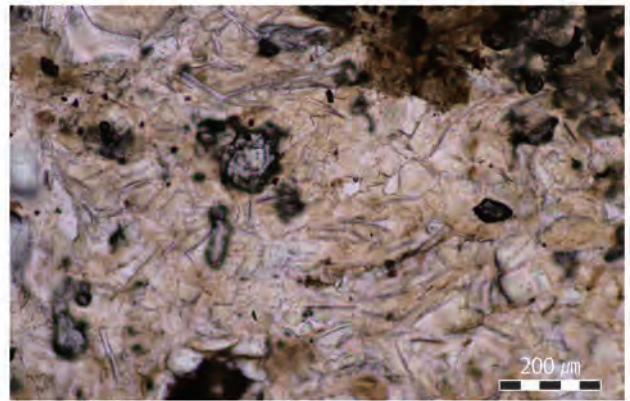
Loc.3 石英 (Qz)、チャート (Ch) を含む。直交ポーラー。



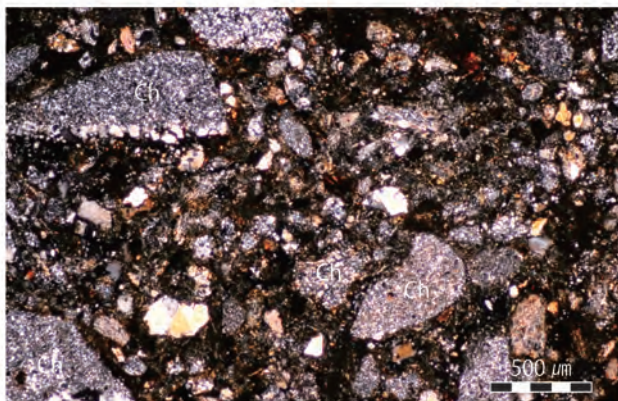
Loc.4 変成岩類 (Me)、生砕物 (Bc) を含む。平行ポーラー。



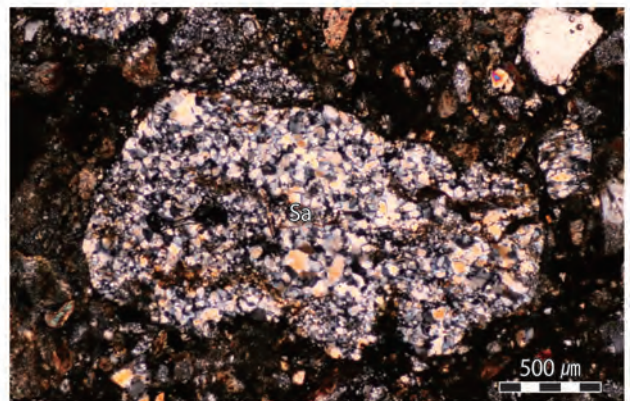
Loc.4 生砕物 (Bc) を多く含む。直交ポーラー。



Loc.5 火山ガラスを多く含む。平行ポーラー。



Loc.6 チャート (Ch) を多く含む。直交ポーラー。



Loc.6 砂岩 (Sa)。直交ポーラー。

表4 久里原貝塚・東原貝塚出土土器胎土の分類

遺跡名	A類	B類	C類	D類
久里原貝塚	23(13)	2(2)	5(4)	0
東原貝塚	0	0	0	4(4)

※ () は分類群中の薄片観察試料の点数。

については、さらに検討が必要であるが、A類胎土の土器が伊平屋島の遺跡で主体を占める点は、この島の地質・地理的環境を反映したものと言え、本稿では便宜的にこれらを在在系土器と捉えておく。

ところで、沖縄における縄文時代後期土器の胎土に、チャートが含まれていることはよく知られた事実であり、この点に着目した研究も少なくない。この点についての系統的な分析は、橋本真紀夫・矢作健二両氏による伊是名貝塚（伊是名村）出土土器の胎土分析を嚆矢とする（橋本・矢作2001）。ここでは伊是名貝塚出土の伊波・萩堂式42点、沖縄県北中城村萩堂貝塚出土の萩堂式23点を含む沖縄各地出土の伊波・萩堂式について胎土分析が実施された結果、79点の試料すべてにチャートが含まれていること、そしてチャート以外の岩石の混入が非常に少ないこと、すなわち全体として胎土の多様性が非常に小さいことが明らかになった。また、晩期には胎土のバリエーションが多様化すること、後晩期の奄美系土器には花崗岩類由来の鉱物・岩片が含まれることも指摘されており、今回の分析結果とも共通する点が多い。

筆者は、古宇利原A遺跡（今帰仁村）、熱田原貝塚（南城市）出土の縄文後期土器（伊波・萩堂式）について胎土分析を実施し、これらの遺跡でもチャートを含む胎土が共通して見られることを確認した（山崎2014、山崎・仲里2015）。以下ではこの種のチャートが優勢となる土器胎土（A類）をCRF（chert-rich fabric）（山崎2018）と呼称することにしたい。

これまでの研究から明らかとなっているように、縄文時代後期の特には伊波・萩堂式期には、北は伊平屋島から南は沖縄島南海岸まで、CRFが広範な分布を示すことは興味深い事実である。この事例は、先史時代の沖縄諸島において、特定の地域に由来する土器（あるいは土器原料）が広く流通していたことを示す好例と言えよう。

これに先行する面縄前庭式や仲泊式については、

従来データが乏しい状況であったが、今回の久里原貝塚の分析において各3例の試料について薄片観察を実施しており、いずれもA類（CRF）と判断されるものであった。伊平屋島では、CRFが少なくとも面縄前庭式までさかのぼって存在することが明らかになったことは重要である。一方、沖縄島で出土する面縄前庭式には、黒雲母を含むものも見られ（山崎・仲里2015）、面縄前庭式期の胎土には一定の多様性が見られることが示された。

今回A類（CRF）と判定された試料の中で、特に注目されたのは仲泊式期の土器群（久里原貝塚の報告書で「型式未設定土器」（玉城ほか1981）とされたもの）で、それらは黄褐色や黄橙色の明るい色調を呈し、シルト質の胎土であるという点で、他のA類とはやや異なる特徴的な外観を呈する。薄片観察では、仲泊式（No.005～007）の胎土は、細粒の石英を多く含む基質中に、粗粒のチャート礫を散発的に含むものであった。こうした様相は、他のA類とはやや異なるものであり、原料の採取場所を特定する上で重要な手がかりになるものと思われる。

4-2 土器原料の由来

上述のように地質の上では、チャートは沖縄島の本部半島とその伊平屋島、伊是名島を含む周辺離島に分布しており、A類やD類胎土の土器は、これらの地域で製作されたか、これらの地域で採取された原料から製作されたと考えられる。

今回、土器胎土との比較試料として、伊平屋島、伊是名島、本部半島の各地から土壌サンプル採取し、そのうち6例について分析を行った。このうち、Loc. 1の前泊地区工事地内、Loc. 6の運天港西方段丘堆積物は、チャートを多く含む点で、A類胎土に類似した組成であった。Loc. 3の伊是名村ふれあい民俗館南方の段丘堆積物では、チャートよりも砂岩が目立つが、これは周辺の基盤岩の分布状況に関連するものと思われる。Loc. 2のクマヤ洞窟周辺の堆積物では、岩片は少なく細粒の石英が多く含まれていた。このような構成は、前項で述べた仲泊式土器の胎土と類似するように思われ、今後の比較検討を要する。

以上のように、今回の分析から見てもA類やD類胎土は、沖縄島の本部半島と伊平屋島、伊是名島を

含む周辺離島で製作されたか、これらの地域で採取された原料から製作されたと考えて矛盾ないと判断できる。なお、東原貝塚出土土器に見られるD類は、鉱物・岩片の組成から見て、原料の採取地点や採取・調整方法がA類とはやや異なっているものと考えられる。

B類の変成岩類を含む胎土の由来としては、伊平屋島も候補となりうるが、沖縄島など他の島々に由来する可能性もある。ただし、条痕文土器(No. 001)については、サキタリ洞遺跡や大堂原貝塚出土の条痕文土器胎土の鉱物組成とも類似性が認められるようであり(パリノ・サーヴェイ株式会社 2005、山崎・仲里 2015)、今後の検討を要する。

C類の長石、雲母類を含む胎土は、花崗岩類に由来するものと考えられ、チャートを含まない点でも異質と言える。このような胎土は、伊平屋島や伊是名島の地質に由来するものとは考えられないものであり、今回の分析では奄美系土器に多く見られた。伊是名貝塚の胎土分析においても同様に、後晩期の奄美系土器に多く見られることから(橋本・矢作 2001)、与論島以北から搬入された可能性が考えられる。瀬戸哲也氏によれば、沖永良部島住吉貝塚(鹿児島県知名町)では雲母を含む胎土が主流をなすという(瀬戸 2014)。一方、徳之島のトマチン遺跡(鹿児島県伊仙町)出土の縄文時代後晩期土器の胎土分析では、黒雲母や長石類の含有は顕著でないことから(鐘ヶ江 2013)、その由来について、与論島や沖永良部島の遺跡を含めた今後の検討が必要である。

4-3 土器相転換期の伊平屋島

すでに指摘されているように、沖縄では縄文時代後期に九州南部の市来式土器の影響を受けて、それまでの土器文化が大きく変化することが知られている(伊藤 2008)。その画期は、面縄前庭式から仲泊式、面縄東洞式を経て、伊波・荻堂式に至る時期にあっており、ちょうど今回分析した久里原貝塚出土土器試料の中核部分に相当する。

この時期、久里原貝塚でも、土器型式が大きく変化したことは事実であるが、その一方で、土器の胎土には大きな変化は認められず、一貫してA類(CRF)が主体を占める。このことは、当該期にお

いては、外来の土器情報を受容しつつも、伝統的な土器づくりのシステムが強固に維持されていたことを示しているように思われる。すなわち、この時期の土器型式の変化は、外部からの新たな土器作り集団の流入や、土器作り技術の流入によってもたらされたものではなく、在来の技術・文化システムの延長上に位置づけられるものと言えよう。

4-3 奄美系土器の様相

上述のように、面縄前庭式から仲泊式、面縄東洞式を経て、伊波・荻堂式に至る土器型式の変化は、文化圏外からの情報の流入と受容にもとづくものであり、情報自体は活甕に伝達されていたと考えられるが、文化圏を越えて土器そのものが運ばれていたわけではなかった。奄美系と捉えられてきた面縄前庭式や面縄東洞式も、今回の久里原貝塚の胎土分析にもとづく限り、胎土の上では在地系土器と判断できるものである。

一方、晩期の奄美系土器(面縄西洞式や喜念I式)は、在地系の宇座浜式やカヤウチバンタ式のA類胎土とは異なるC類胎土を特徴とし、奄美方面からの搬入品と考えられるものであった。すなわち、晩期には奄美と沖縄との間で情報だけでなく、具体的なモノ(消耗品である土器)が活甕に運ばれていたことが想定できる。この点に、南島における縄文後期から晩期への社会・文化システムとネットワークの変化を読み取ることができるのではないだろうか。

5 おわりに

本研究では、伊平屋島に所在する久里原貝塚および東原貝塚出土の土器について、マイクロスコープおよび偏光顕微鏡を用いた胎土分析を行った。また、土器胎土との比較試料として、伊平屋島、伊是名島、本部半島の各地から土壌サンプル採取し、合わせて分析を行った。その結果、久里原貝塚出土土器は、A類：チャートを含む胎土、B類：変成岩類を含む胎土、C類：長石、雲母類を含む胎土に分類することができた。また、東原貝塚出土土器はチャートを含む点でA類に類似するが、A類に比べて含有量は少なく、D類として区別した。

地質の上では、チャートは沖縄島の本部半島と伊

平屋島、伊是名島を含む周辺離島に分布しており、A類およびD類胎土の土器は、これらの地域で製作されたか、これらの地域で採取された原料から製作されたと考えられる。A類およびD類がまさに伊平屋島において製作されたかどうかについてはさらに検討が必要であるが、A類およびD類胎土の土器が伊平屋島の遺跡で主体を占める点は、この島の地質・地理的環境を反映したものと見えよう。

これに対してB類の由来としては、伊平屋島も候補となりうるが、沖縄島など他の島々に由来する可能性も考えられる。また、C類は、伊平屋島や伊是名島の地質に由来するものとは考えられないものであり、このような胎土は、今回の分析において奄美系土器に多く見られたことから、与論島以北から伊平屋島に搬入された可能性が考えられる。

沖縄では縄文時代後期に九州南部の市来式土器の影響を受けて、それまでの土器文化が大きく変化することが知られているが、この時期、久里原貝塚では土器胎土に大きな変化は認められず、一貫してA類が主体を占める。このことは、この時期の土器型式の変化が、外部からの土器作り集団の流入や、土器作り技術の流入によってもたらされたものではなく、在来技術・文化システムの延長上に位置づけられることを物語っていると言えよう。

また、情報やモノのネットワークという観点から見た場合、久里原貝塚では縄文時代後期に土器型式の大きな画期が見られる一方で、土器胎土には大きな変化はなく、この時期の画期は土器製作システム上の転換というわけではなく、外部からの情報の流入と受容にもとづくものと考えられた。

一方、晩期には、在来系のA類胎土とは異なるC類胎土の奄美系土器（面縄西洞式や喜念Ⅰ式）が認められ、これらは奄美方面からの搬入品と考えられるものであった。すなわち、晩期には奄美と沖縄との間で情報だけでなく、具体的なモノ（消耗品である土器）が活発に運ばれていたことが想定できる。胎土中に雲母類を含む喜念Ⅰ式類似土器は沖縄島南部でも出土することがあり、この点に、南島における縄文後期から晩期への社会・文化システムとネットワークの変化を読み取ることができるのではないだろうか。

本研究の実施にあたり、沖縄県立埋蔵文化財センターには各遺跡出土土器の胎土分析を許可していただき、分析試料を提供していただきました。また新垣力、宇佐美賢、金城亀信、瀬戸哲也の諸氏には、さまざまな形で協力ならびにご教示いただきました。末筆ながら記して謝意を表します。

参考文献

- 伊藤慎二 2008「琉球縄文土器（前期）」小林達雄編『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 伊平屋村教育委員会 1981『久里原貝塚 範囲確認調査報告書』
- 伊平屋村教育委員会 1986『東原貝塚ほか発掘調査報告』
- 鐘ヶ江賢二 2013「トマチン遺跡出土土器の岩石学的分析」新里貴之編『徳之島トマチン遺跡の研究』鹿児島大学埋蔵文化財調査研究センター
- 瀬戸哲也 2014「室川式・室川上層式および関連土器群の再検討」新里貴之・高宮広土編『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』六一書房
- 玉城朝健・島袋洋・岸本義彦 1981「土器」『久里原貝塚 範囲確認調査報告書』伊平屋村教育委員会
- 橋本真紀夫・矢作健二 2001「伊是名貝塚および関連する土器胎土分析—土器の材料はどこにあったのか」『伊是名貝塚—沖縄県伊是名貝塚の調査と研究』伊是名貝塚学術調査団
- パリノ・サーヴェイ株式会社 2005「土器の胎土分析」『大堂原貝塚』名護市教育委員会
- 山崎真治 2014「先史土器の胎土分析から見た流通圏とその画期」『沖縄考古学会2014年度研究発表会資料集』
- 山崎真治 2018「沖縄における土器胎土分析をめぐる諸問題」『南島考古』37
- 山崎真治・仲里健 2015「沖縄島南部における先史土器胎土の長期的変化に関する一考察」『日本考古学』40